

専念寺通信

専念寺通信

二月号 (NO. 90)

平成20年になり、はや、ひと月がたちました。一月下旬からかなり気温が下がりはじめ、寒い日が続いています。インフルエンザも大流行しているようです。みなさま、おかわりなくお過ごしですか？

☆法然上人の言葉

もし衆生ありて、かのくにうまれんと願ずるものは、三種の心を起してすなわち往生すべし。
一には至誠心、二には深心、三には廻向発願心也。三心を具するものは、かならずかのくに生まるといへり。

『浄土宗略抄』

一月号でご紹介した最後の部分です。至誠心は「しじょうしん」、深心は「じんしん」、廻向発願心は「えこうほつがんしん」とそれぞれ読みます。身をもって阿弥陀仏を礼拝し、口で阿弥陀仏をとなえ、心でひたすら阿弥陀仏や浄土に思いをこらし、忘れないことを「至誠心」と呼びます。また、「深心」は、文字通り、深く信ずる心をいいます。みずからが煩惱に満ちた存在であり、すぐれた報いをうけるような善もあまり積んでいない、物と欲と心の三つの世界（三界）を迷っている人間であることを自覚し、このような身でありながらも、たとえ、一声でも十声でもよい、名号をとなえれば仏は必ず救ってくださるとの、少しの疑いもない心を持つことをさします。「廻向発願心」とは、自分がなしてきたすべての善をふり向けて、浄土に往生したいと願う心をいいます。

法然上人が、学をおさめる機会のない、煩惱を振り払うことのできない、弱い立場の人すべて救おうとした思いが伝わる一文です。

☆ **ちいさなお知らせ:** 1月24日付け朝日新聞の天声人語から。「無敵の軍を思うがままに動かし、地球環境にはさほどの関心もなく、貿易赤字はそのままに「借金」で石油がぶ飲み消費ざんまい。もっぱら為政者の責任だが、米国のありようが問われているかに見える。」そして次のように続きます。「この国が仕切る世界も、長くはないのか。」法然上人の生きた「末世」が思いおこされます。人はみずからの愚かさ弱さを知らねばなりません。すべてをそこから始めねばなりません。

☆ もうひとつちいさな

お知らせ: 12月号

にあたらしい生命の誕生をお知らせしたところ、多くの檀家さまから祝福と励ましのお言葉を頂戴しました。年末年始の、身にしみてうれしい出来事でした。皆さまの暖かいお気持ちに心から御礼申し上げます。

今月号は、専念寺の猫、仁和寺から来たニンと、昨年6月に他界したクロの写真を掲載させて頂きます。

寒さはこれからが本番皆さま、お風邪を召さぬよう、お過ごし下さい。
平成20年2月1日

大黒

